

青森市公立病院改革プラン 2016 - 2020  
点検・評価報告  
(平成 28 年度実績)

平成 29 年 10 月  
青森市民病院・青森市立浪岡病院

## 目次

<b>1 青森市公立病院改革プラン2016-2020 点検評価について</b> .....	<b>1</b>
<b>2 改革プランの点検</b>	
(1) 経営効率化に係る計画	
●市民病院 .....	<b>1</b>
●浪岡病院 .....	<b>5</b>
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割（市民病院、浪岡病院） ...	<b>9</b>
(3) 再編・ネットワークに係る計画（市民病院、浪岡病院） .....	<b>9</b>
(4) 経営形態見直しに係る計画（市民病院、浪岡病院） .....	<b>9</b>
<b>3 自己評価</b> .....	<b>9</b>
（別紙1）収支計画【市民病院】	
（別紙2）収支計画【浪岡病院】	

青森市公立病院改革プラン 2016 - 2020 点検・評価  
(平成 28 年度実績)

1 青森市公立病院改革プラン 2016-2020 点検評価について

青森市では、青森市民病院（以下「市民病院」）及び青森市立浪岡病院（以下「浪岡病院」）の果たすべき役割を明確化するとともに、引き続き病院収支の改善や経営基盤の強化などを通じて、持続可能な病院経営を目指すため、「青森市公立病院改革プラン 2016 - 2020（以下「改革プラン」）」を平成 29 年 5 月に策定したところであります。

当改革プランにつきましては、決算状況を踏まえ、毎年、点検・評価することとしておりますことから、以下のとおり点検するものであります。

2 改革プランの点検

(1) 経営効率化に係る計画

市民病院

改革プランにおける計画値は、平成 28 年度決算見込値をベースとし、今後の取組を含めて推計したものであり、計画期間内の経常黒字は困難なものの、近年の厳しい経営状況を踏まえた本改革プランの各種取り組みを確実に実行することに加え、診療報酬改定など取り巻く医療環境の変化を敏感に捉えながら、計画期間内においても適宜、新たな取り組みを加えた内容に修正し、早い段階での経常黒字化を目指すこととしております。

平成 28 年度の実績につきましては、計画と比較して、収入、支出とも下回り、平成 27 年度に引き続き赤字を計上する極めて厳しい経営状況となりましたが、経常損益、純損益については計画値を上回りました。

この主な要因として、収入面においては、

- (a) 入院収益について、診療単価については計画値を上回ったものの、平成 28 年度に実施した病棟改修工事の影響等により入院患者数が減となったことから、計画値を下回ったこと。
- (b) 外来収益について、患者数は計画値を上回ったものの、診療単価が下回ったことから、計画値を下回ったこと。

また、支出面においては、

- (c) 経費について、光熱水費の支出額の減等により計画値を大幅に下回ったこと。
- などによるものが主な要因として考えられます。

【収入】

項 目		計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
(a)	病床利用率	61.1%	59.9%	△1.2P
	入院延べ患者数	119,975 人	117,581 人	△2,394 人
	入院収益	6,745,845 千円	6,677,124 千円	△68,721 千円
	入院診療単価	56,227 円	56,787 円	+560 円
(b)	外来延べ患者数	201,952 人	202,267 人	+315 人
	外来収益	2,279,127 千円	2,219,076 千円	△60,051 千円
	外来診療単価	11,285 円	10,971 円	△314 円
経 常 収 益 計		10,343,967 千円	10,200,043 千円	△143,924 千円

【支出】

項目	計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
(c) 経費	1,630,515 千円	1,565,129 千円	△65,386 千円
経常費用計	10,719,523 千円	10,573,864 千円	△145,659 千円

【損益、資金不足】

項目	計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
経常損益	△375,556 千円	△373,820 千円	+1,736 千円
純損益（特別利益・損失含む）	△334,131 千円	△329,688 千円	+4,443 千円
資金不足額	437,598 千円	442,208 千円	+4,610 千円

平成 28 年度の実績については、前述のとおり収益の減が支出の減を上回ったことから経常損益、純損益については計画額を下回ったところですが、今後は休診している呼吸器内科の医師確保対策を早急に行ない、診療を再開することにより患者数の増に結びつけ、さらなる赤字額の減少に努める必要があります。

①医療機能等指標に係る数値目標

項目	平成 28 年度		比 較 (実績－計画)
	計 画	実 績	
紹介率	79.1%	79.5%	+0.4 P
逆紹介率	61.3%	65.8%	+4.5 P
手術件数	3,033 件	3,140 件	+107 件
救急車受入件数	2,730 件	2,712 件	△18 件
臨床研修医数	19 人	19 人	－

②経営指標に係る数値目標

項目	平成 28 年度		比 較 (実績－計画)
	計 画	実 績	
1) 収支改善に係るもの			
経常収支比率	96.5%	96.5%	－
医業収支比率	92.2%	92.0%	△0.2 P
経常損益額	△375,556 千円	△373,820 千円	+1,736 千円
資金不足額	437,598 千円	442,208 千円	+4,610 千円
資金不足比率	4.6%	4.8%	+0.2 P
2) 経費削減に係るもの			
材料費対医業収益比率	28.1%	28.5%	+0.4 P
後発医薬品使用割合	76.0%	77.4%	+1.4 P
3) 収入確保に係るもの			
病床利用率	61.1%	59.9%	△1.2 P
【参考】休床除く病床に対する 利用率（474 床）	69.6%	69.3%	△0.3 P

1日当たり入院患者数	328.7人	322.1人	△6.6人
1日当たり外来患者数	831.1人	832.4人	+1.3人
入院診療単価	56,227円	56,787円	+560円
外来診療単価	11,285円	10,971円	△314円
4) 経営の安定性に係るもの			
医師数	57人	57人	—
看護職員数	350人	346人	△4人
一時借入金残高	1,600,000千円	1,400,000千円	△200,000千円
他会計借入金残高	574,430千円	574,430千円	—

### ③数値目標達成に向けての具体的な取組計画及び実績

項目	計画	平成28年度実績	
安定した医療提供体制の確保	<b>【医療従事者の確保対策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弘前大学に対する医師派遣要望の継続</li> <li>・病院ホームページ等を活用した公募による医師確保</li> <li>・呼吸器内科・精神神経科の診療再開</li> <li>・看護職員及び医療技術職員の増員及び育成</li> <li>・医療従事者の負担軽減のための医師事務作業補助者及び看護補助者の増員、研修によるスキルアップ</li> <li>・魅力ある職場づくりによる新規採用者の増及び離職者の減</li> </ul>	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弘前大学から派遣されている常勤医師は前年度に比べ1名増となったものの、休診診療科の再開には至らなかった。</li> <li>・医師の派遣元である弘前大学に増員派遣を要請するとともに、全国自治体病院協議会の医師求人支援センターや、市民病院のホームページにおいて医師の公募を実施。</li> <li>・計画どおりの看護職員数（正職員）とはならなかったが、7対1看護体制は維持している。</li> </ul>
	<b>【臨床研修医指導・育成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある臨床研修プログラムの作成</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医は、前年度に比べ2名増の19名となった。</li> </ul>
	<b>【急性期機能の維持・強化】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送患者の積極的、効率的な受け入れ体制の構築</li> <li>・医療機器の更新や最新機器の導入による高度医療提供体制の維持</li> </ul>	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車の受入件数は前年度に比べ39件増の2,712件となったが、計画値には若干届かなかった。（△18件）</li> </ul>
			達成
医療機能、医療需要に見合う病床規模へのダウンサイジング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床稼働率及び医療需要に見合った病床削減数の検討</li> <li>・チーム医療の推進を図るために必要な職員の増員及び配置</li> <li>・病床を削減する際には、大部屋を現在より少人数とし、療養環境の向上を図る</li> </ul>	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な病床規模の検討を継続</li> </ul>

病院経営を継続していくための強い経営体質への転換	<b>【地域連携の強化による紹介患者数の増】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携室の体制強化による紹介実患者数の増</li> <li>・地域の医療機関との連携強化</li> <li>・医療機器共同利用の推進</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率・逆紹介率とも計画値を上回った。平成 29 年度からの地域連携室の体制強化に向けての対応を行った。</li> </ul>
	<b>【その他患者数の増対策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇対策による病院のイメージアップの継続</li> <li>・ホームページや市広報誌などによる市民病院からの情報発信</li> <li>・救急搬送患者の積極的、効率的な受け入れ体制の構築（再掲）</li> <li>・受診しやすい環境の提供</li> </ul>	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟改修工事を行い療養環境の向上を図ったが、この影響により当年度の病床利用率は計画値を下回った。 (61.1%→59.9%)</li> </ul>
	<b>【診療単価の増】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種加算取得</li> <li>・DPC 機能評価係数Ⅱ対策</li> <li>・診療報酬の請求漏れを防ぐため、定期的に院内研修会を実施</li> </ul>	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度診療報酬改定に伴う対応を実施し、上位加算を取得する等、診療単価の増に努めたことにより、入院診療単価は計画値を上回ったものの、外来診療単価は計画値を下回った。</li> </ul>
	<b>【価格交渉による材料費の削減及び集約化】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価格交渉のコンサルタント導入による診療材料費の削減</li> <li>・薬事委員会や診療材料委員会における使用品目の集約化の推進</li> </ul>	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料費対医業収益比率は計画値を若干下回った。 (28.1%→28.5%)</li> <li>・次年度へ向け価格交渉コンサルタントに係る委託料を平成 29 年度当初予算計上した。</li> </ul>
	<b>【後発医薬品の使用割合向上】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後発医薬品への積極的な切り替え</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後発医薬品の使用割合は、計画値を上回った。 (76.0%→77.4%)</li> </ul>

④各年度の収支計画  
別紙 1 のとおり

## 浪岡病院

改革プランにおける計画値は、平成 28 年度決算見込値をベースとし、今後の取組を含めて推計したものであり、平成 32 年度には、看護師の定年退職者不補充による給料・手当の減などを主な要因として、経常損益が、一旦、黒字に転ずるものの、「浪岡病院のあり方」を踏まえた新たな診療体制での運営は、本計画期間以降（平成 33 年度以降）を想定していることから、継続的な黒字化を目指す時期についても、平成 33 年度以降を想定しているところです。

平成 28 年度の実績につきましては、計画と比較して、収入、支出とも下回り、平成 27 年度に引き続き赤字を計上する、極めて厳しい経営状況となりました。

この主な要因として、収入面においては、

(a) 入院収益について、内科や精神神経科の患者数が減となったことを主な要因として、計画値を下回ったこと。

(b) 外来収益についても、患者数が下半期に落ち込んだため、計画値を下回ったこと。

また、支出面においては、

(c) 医療機器修繕料の減や、患者数の減に伴う給食及びクリーニング業務委託料の減による経費の減

などによるものが主な要因として考えられます。

### 【収入】

項 目		計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
(a)	病床利用率	32.3%	31.9%	△0.4P
	入院延べ患者数	23,479 人	23,136 人	△343 人
	入院収益	492,979 千円	491,794 千円	△1,185 千円
	入院診療単価	20,997 円	21,257 円	+260 円
(b)	外来延べ患者数	45,369 人	43,908 人	△1,461 人
	外来収益	249,795 千円	242,170 千円	△7,625 千円
	外来診療単価	5,463 円	5,515 円	+52 円
経 常 収 益 計		1,105,757 千円	1,099,424 千円	△6,333 千円

### 【支出】

項 目		計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
(c)	経費	186,292 千円	178,888 千円	△7,404 千円
経 常 費 用 計		1,224,787 千円	1,203,116 千円	△21,671 千円

### 【損益、資金不足】

項 目	計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
経常損益	△119,030 千円	△103,692 千円	+15,338 千円
純損益（特別利益・損失含む）	△116,784 千円	△96,875 千円	+19,909 千円
資 金 不 足 額	350,396 千円	356,875 千円	+6,479 千円

前年度に引き続き、純損失（赤字）となった主な要因につきましては、内科や精神神経科の入院患者数が減少したため、結果として、入院収益が大幅減となったことによりますが、計画と比較し、経常損益と純損益が改善しているのは、収入の減より支出の減が上回ったことによるものです。

また、計画と比較し、資金不足額が増となったのは、予定をしていなかった常勤医師の退職に伴う退職金によるものです。

今後は、収入面においては、患者の確保や新たな診療報酬の取得について検討し、支出面においては、看護師の定年退職者不補充による人件費の削減や施設・設備整備費の更なる削減を図り、赤字額の減少に努める必要があります。

①医療機能等指標に係る数値目標

項 目	平成 28 年度		比 較 (実績－計画)
	計 画	実 績	
紹介率	10.79%	11.47%	+0.68P
逆紹介率	10.88%	11.76%	+0.88P
救急搬送件数	181 件	191 件	+10 件

②経営指標に係る数値目標

項 目	平成 28 年度		比 較 (実績－計画)
	計 画	実 績	
1) 収支改善に係るもの			
経常収支比率	90.3%	91.4%	+1.1P
医業収支比率	71.9%	72.4%	+0.5P
経常損益額	△119,030 千円	△103,692 千円	+15,338 千円
資金不足額	350,396 千円	356,875 千円	6,479 千円
資金不足比率	40.8%	42.0%	+1.2P
2) 経費削減に係るもの			
職員給与対医業収益比率	94.2%	94.5%	+0.3P
材料費等対医業収益比率	19.8%	19.3%	△0.5P
3) 収入確保に係るもの			
病床利用率（一般）	26.5%	29.8%	+3.3P
病床利用率（精神）	35.4%	33.6%	△1.8P
病床利用率（全体）	32.3%	31.9%	△0.4P
【参考】休床除く病床に対する 利用率（一般 50 床）	52.9%	54.9%	+2.0P
1 日当たり入院患者数	64.3 人	63.4 人	△0.9 人
1 日当たり外来患者数	170.6 人	165.1 人	△5.5 人
入院診療単価	20,997 円	21,257 円	+260 円
外来診療単価	5,463 円	5,515 円	+52 円
4) 経営の安定性に係るもの			
医師数	6 人	6 人	—
一時借入金残高	428,553 千円	400,000 千円	△28,553 千円
他会計借入金残高	165,000 千円	165,000 千円	—



③数値目標達成に向けての具体的な取組計画及び実績

項目	計画	平成 28 年度実績	
浪岡病院のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当院の現状と今後の地域の医療需要を踏まえ、現在、将来的に持続可能な病院規模・機能について検討を進める。</li> <li>・ 検討にあたっては、地域医療構想で示された方向性や地域医療調整会議の場で示された取組み内容を勘案しつつ、地域住民の皆様の声を伺いながら、慎重に進める。</li> </ul>	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あり方の検討にあたり、(これまでの方法に加え)本市の医療に携わる専門家の方々からの意見を参考とすることとしたため、H28 年度末時点において、「検討中」である。</li> </ul>
安定した医療提供体制の確保	<b>【医師、看護師及び医療技術職員の確保対策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弘前大学に対する医師派遣要望の継続</li> <li>・ 医師事務作業補助者の増員</li> <li>・ 看護体制の維持</li> <li>・ 医療従事者の研修への参加や資格取得等によるスキルアップ</li> </ul>	未達成	<b>【医師確保関連】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29 年 3 月に常勤の小児科医師が退職したため、大学に医師派遣を要請したところ、H29. 4 月以降、小児科の体制は、非常勤医師による週 2 回(月・木)と第 2 第 4 土曜日の外来診療のみとなったところである。</li> <li>・ 医師事務作業補助者についても、職員の研修が必要なこともあり、増員にはいたらなかった。</li> </ul>
		達成	<b>【看護師確保関連】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護体制については、一般の 10 対 1、精神の 15 対 1 を維持している。</li> </ul>
	<b>【医療機能の維持】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器等の更新による医療提供体制の維持</li> <li>・ 救急搬送の受入態勢の強化</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CT 装置を更新し、医療提供体制の維持と向上に努めた。</li> </ul>
		達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急搬送の受入については、計画値を上回った。</li> </ul>
	<b>【在宅医療の充実と福祉・介護事業者との連携強化】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問看護体制の強化</li> <li>・ 地域包括支援センター浪岡をはじめとした福祉・介護事業者等との連携の強化</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問看護については精神神経科と内科の患者を対象としており看護師 2 名が計画的に訪問している。</li> </ul>
病院経営を継続していくための経営基盤の構築	<b>【地域連携の強化による紹介患者数の増】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浪岡地区の医療機関等との連携強化・情報共有に努め、紹介率・逆紹介率の向上に努める。</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介率・逆紹介率とも計画値を上回った。</li> </ul>

<p><b>【患者確保対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受診環境の改善や患者サービスの向上に努めることで、患者に選ばれる病院づくりを行っていく。</li> <li>・ 院内のトイレを洋式に更新するなど、利用しやすい環境の提供</li> <li>・ 接遇対策等による病院のイメージアップ</li> <li>・ 病床利用率、1日当たり入院患者数、1日当たり外来患者数の目標値の設定</li> </ul>	未達成	・ 院内トイレの洋式化について検討を進めている。
	達成	・ 接遇研修については、院内全体での研修実現には至らなかったが、看護局では定期的に接遇研修を行っている。
	未達成	・ 入院については、内科・精神神経科の患者数の減、外来については、下半期の患者の減により計画値を下回った。
	達成	・ 新たに取得した加算はないものの、高画質のCTに更新したためCT撮影時の診療点数が増となった。
	達成	・ H28年度の主な診療報酬改定内容について、請求漏れ等を防ぐため職員全体への勉強会を行った。
	達成	・ 材料費については、市民病院で一括して価格交渉を行っており、市民病院と（同品目については、）同額で契約している。
<p><b>【経費の削減対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正な在庫管理、価格交渉等による材料費の削減</li> <li>・ 長期継続契約の推進による経費削減</li> </ul>	達成	・ 長期継続契約については、エレベーター保守点検業務他1件となっている。

④各年度の収支計画  
別紙2のとおり

## (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割（市民病院、浪岡病院）

青森市は、「青森市高齢者福祉・介護保険事業計画 第6期計画（平成27年度～平成29年度）」において、地域包括ケアシステム構築を重点事項として位置づけ、現在、取組を推進しているところであります。

この中で、市民病院は地域の医療体制の中で急性期を担う中核病院として、浪岡病院は医療提供の場として、他の関係機関との連携を推進することにより、地域包括ケアシステム構築に向けた役割を果たしていくこととしております。

## (3) 再編・ネットワークに係る計画（市民病院、浪岡病院）

青森市及び東青地区からなる青森地域保健医療圏の公立病院は、市民病院、浪岡病院のほか、平内町国保平内中央病院、外ヶ浜町国保外ヶ浜中央病院、三次医療を担う青森県立中央病院があります。

再編・ネットワーク化については、当市の地域医療の推進事務を担っている保健部と連携しながら、地域医療構想で示された青森地域の自治体病院等の機能分化・連携の方向性に基づき、毎年圏域ごとに開催される地域医療構想調整会議等を活用しながら、圏域内の機能分化・連携について検討していくとともに、平成37年度末を目途に、再編・ネットワーク化の必要性についても検討して参ります。

## (4) 経営形態見直しに係る計画（市民病院、浪岡病院）

民間的経営手法の導入を図る観点から、地方公営企業法の全部適用や地方独立行政法人への移行等の経営形態の見直しについて、移行に伴うメリット・デメリットを検証しながら、引き続き検討を行って参ります。

なお、本市の病院事業は、市民病院と浪岡病院で構成されておりますが、現在、浪岡病院の将来的に持続可能な病院規模・機能について検討を進めているところであり、経営形態の見直しについては、その結果も踏まえて検討することとしております。

## 3 自己評価

本改革プランは、計画期間を平成28年度から平成32年度までとしておりますが、平成28年度実績といたしましては、市民病院、浪岡病院ともに、主として患者数の減少に起因する医業収益の減により前年度に引き続き純損失を計上したところであります。

今後は、市民病院においては、28年度の病棟改修工事によって落ち込んだ入院患者数の回復に努めるとともに、引き続き弘前大学と連携しながら医師確保に努め、休診している診療科の再開を図ること等、改革プランの着実な実施により、収益の改善を図ることが必要となります。

また浪岡病院においては、計画期間内は現行の医療機能を維持することとしており、現在検討中である「浪岡病院のあり方」を踏まえた新たな診療体制での運営は、本計画期間以降（平成33年度以降）を想定していることから、継続的な黒字化を目指す時期についても、平成33年度以降を想定しているところです。

今後の浪岡病院のあり方の検討については、本市の医療に携わる専門家の方々からの意見を参考にするとともに、浪岡自治区地域協議会の場を活用するなど、住民の皆様の意見も参考としながら、「青森県地域医療構想」を踏まえた市としての方向性を見出すこととしております。

市民病院及び浪岡病院の経営状況が厳しいことには変わりありませんが、環境変化の病院に与える影響を的確に把握、適切に対応しながら、青森市民の健康を守るという本来の役割を堅持し、地域の信頼に応え得る医療を提供しながら、より健全で、持続可能な経営を行っていくため、職員一同、継続して努力して参ります。

(別紙1)

団体名 (病院名)	青森市(青森市民病院)
--------------	-------------

## 1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:千円、%)

区分	年度	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度		
				計画	実績	計画との乖離
収 入	1. 医 業 収 益 a	9,120,946	9,499,076	9,442,646	9,309,239	△ 133,407
	(1) 料 金 収 入	8,718,494	9,087,605	9,024,972	8,896,200	△ 128,772
	(2) そ の 他	402,453	411,472	417,674	413,039	△ 4,635
	うち他会計負担金	222,535	229,067	232,251	232,251	0
	2. 医 業 外 収 益	1,265,566	1,001,852	901,320	890,804	△ 10,516
	(1) 他会計負担金・補助金	378,843	381,029	397,247	397,247	0
	(2) 国(県)補助金	36,809	37,703	29,735	18,976	△ 10,759
	(3) 長期前受金戻入	694,932	430,994	315,290	315,345	55
	(4) そ の 他	154,982	152,126	159,048	159,236	188
	経 常 収 益 (A)	10,386,513	10,500,929	10,343,967	10,200,043	△ 143,924
支 出	1. 医 業 費 用 b	9,825,372	10,082,905	10,240,145	10,115,220	△ 124,925
	(1) 職 員 給 与 費 c	4,977,145	4,968,635	5,174,523	5,120,954	△ 53,569
	(2) 材 料 費	2,483,890	2,712,173	2,651,086	2,656,052	4,966
	(3) 経 費	1,526,844	1,542,542	1,630,515	1,565,129	△ 65,386
	(4) 減 価 償 却 費	770,998	793,687	708,719	708,717	△ 2
	(5) そ の 他	66,494	65,868	75,302	64,368	△ 10,934
	2. 医 業 外 費 用	448,040	461,763	479,377	458,644	△ 20,733
	(1) 支 払 利 息	16,411	10,625	6,523	6,522	△ 1
	(2) そ の 他	431,629	451,137	472,854	452,122	△ 20,732
	経 常 費 用 (B)	10,273,412	10,544,667	10,719,523	10,573,864	△ 145,659
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	113,100	△ 43,739	△ 375,556	△ 373,820	1,736	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	27,145	50,684	44,476	△ 6,208
	2. 特 別 損 失 (E)	3,583,839	485	9,259	344	△ 8,915
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	△ 3,583,839	26,660	41,425	44,132	2,707
純 損 益 (C)+(F)	△ 3,470,739	△ 17,079	△ 334,131	△ 329,688	4,443	
累 積 欠 損 金 (G)	4,146,053	4,163,131	4,497,262	4,492,820	△ 4,442	
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	1,918,133	2,060,254	1,976,366	1,938,193	△ 38,173
	流 動 負 債 (イ)	2,514,573	2,668,111	2,679,197	2,700,257	21,060
	うち一時借入金	1,400,000	1,600,000	1,600,000	1,400,000	△ 200,000
	翌年度繰越財源(ウ)	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(エ)	0	0	0	0	0
	差引不良債務 [(イ)-(エ)]-(ア)-(ウ)(オ)	596,440	607,857	702,831	762,064	59,233
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	101.1	99.6	96.5	96.5	△ 0.0	
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	6.5	6.4	7.4	8.2	0.8	
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	92.8	94.2	92.2	92.0	△ 0.2	
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{c}{a} \times 100$	54.6	52.3	54.8	55.0	0.2	
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額 (H)	215,152	221,016	437,598	442,208	4,610	
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	2.4	2.3	4.6	4.8	0.2	
病 床 利 用 率	63.7	63.0	61.1	59.9	△ 1.2	

団体名 (病院名)	青森市(青森市民病院)
--------------	-------------

## 2. 収支計画(資本的収支)

区分	年度	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度		
				計画	実績	計画との乖離
収 入	1. 企 業 債	491,000	731,200	868,300	856,300	△ 12,000
	2. 他 会 計 出 資 金	728,997	404,383	0	4,352	4,352
	3. 他 会 計 負 担 金	0	0	284,292	279,938	△ 4,354
	4. 他 会 計 借 入 金	0	0	0	0	0
	5. 他 会 計 補 助 金	26,751	44,634	0	0	0
	6. 国 ( 県 ) 補 助 金	0	67	0	0	0
	7. そ の 他	0	14,555	0	0	0
	収 入 計 (a)	1,246,748	1,194,838	1,152,592	1,140,590	△ 12,002
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0
純計(a)-[(b)+(c)] (A)	1,246,748	1,194,838	1,152,592	1,140,590	△ 12,002	
支 出	1. 建 設 改 良 費	560,685	705,494	805,162	794,489	△ 10,673
	2. 企 業 債 償 還 金	1,203,513	757,260	535,006	535,005	△ 1
	3. 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金	250,000	0	0	0	0
	4. そ の 他	0	56,348	67,575	66,653	△ 922
	支 出 計 (B)	2,014,198	1,519,101	1,407,743	1,396,147	△ 11,596
差 引 不 足 額 (B)-(A) (C)	767,450	324,263	255,151	255,557	406	
補 て ん 財 源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	0	0	0	84,846	84,846
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額	0	0	0	0	0
	3. 繰 越 工 事 資 金	0	0	0	0	0
	4. そ の 他	767,450	324,263	255,151	170,711	△ 84,440
計 (D)	767,450	324,263	255,151	255,557	406	
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)	0	0	0	0	0	
実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0	0	

- 複数の病院を有する事業にあつては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
- 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。

## 3. 一般会計等からの繰入金の見通し(高等看護学院分除く)

	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度		
			計画	実績	計画との乖離
収 益 的 収 支	( 0 ) 601,378	( 0 ) 610,096	( 0 ) 629,498	( 0 ) 629,498	( 0 ) 0
資 本 的 収 支	( 0 ) 728,997	( 0 ) 403,033	( 1,081 ) 279,939	( 1,080 ) 279,938	( △1 ) △ 1
合 計	( 0 ) 1,330,375	( 0 ) 1,013,129	( 1,081 ) 909,437	( 1,080 ) 909,436	( △1 ) △ 1

(注)

- ( )内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。

(別紙2)

団体名 (病院名)	青森市(青森市立浪岡病院)
--------------	---------------

## 1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:千円、%)

区分	年度	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度		
				計画	実績	計画との乖離
収 入	1. 医 業 収 益 a	974,946	911,357	857,552	849,468	△ 8,084
	(1) 料 金 収 入	859,562	794,812	740,844	733,964	△ 6,880
	(2) そ の 他	115,384	116,545	116,708	115,504	△ 1,204
	うち他会計負担金	86,639	87,187	88,551	88,551	0
	2. 医 業 外 収 益	243,306	238,521	248,205	249,956	1,751
	(1) 他会計負担金・補助金	208,763	209,911	220,825	220,825	0
	(2) 国(県)補助金	0	0	0	0	0
	(3) 長期前受金戻入	33,330	27,386	26,497	28,138	1,641
	(4) そ の 他	1,213	1,224	883	993	110
	経 常 収 益 (A)	1,218,252	1,149,878	1,105,757	1,099,424	△ 6,333
支 出	1. 医 業 費 用 b	1,257,421	1,217,875	1,194,445	1,174,746	△ 19,699
	(1) 職 員 給 与 費 c	813,433	831,316	807,887	802,484	△ 5,403
	(2) 材 料 費	163,717	147,947	146,875	141,572	△ 5,303
	(3) 経 費	217,156	187,556	186,292	178,888	△ 7,404
	(4) 減 価 償 却 費	61,765	48,899	46,250	45,104	△ 1,146
	(5) そ の 他	1,350	2,157	7,141	6,698	△ 443
	2. 医 業 外 費 用	34,473	30,975	30,342	28,370	△ 1,972
	(1) 支 払 利 息	2,440	1,963	1,413	1,362	△ 51
	(2) そ の 他	32,033	29,012	28,929	27,008	△ 1,921
	経 常 費 用 (B)	1,291,894	1,248,850	1,224,787	1,203,116	△ 21,671
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	△ 73,642	△ 98,972	△ 119,030	△ 103,692	15,338	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	3,266	6,823	3,557
	2. 特 別 損 失 (E)	606,276	6	1,020	6	△ 1,014
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	△ 606,276	△ 6	2,246	6,817	4,571
純 損 益 (C)+(F)	△ 679,918	△ 98,978	△ 116,784	△ 96,875	19,909	
累 積 欠 損 金 (G)	1,215,460	1,314,438	1,431,223	1,411,314	△ 19,909	
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	149,134	155,394	146,540	147,100	560
	流 動 負 債 (イ)	377,179	476,442	548,659	554,782	6,123
	うち一時借入金	216,108	280,000	428,553	400,000	△ 28,553
	翌年度繰越財源(ウ)	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(エ)	0	0	0	0	0
差引不良債務 [(イ)-(エ)]-(ア)-(ウ) (オ)	228,045	321,048	402,119	407,682	5,563	
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	94.3	92.1	90.3	91.4	1.1	
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	23.4	35.3	46.9	48.0	1.1	
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	77.6	74.9	71.9	72.4	0.5	
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{c}{a} \times 100$	83.4	91.2	94.2	94.5	0.3	
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額 (H)	132,744	263,885	350,396	356,875	6,479	
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	13.6	29.0	40.9	42.0	1.2	
病 床 利 用 率	41.5	36.5	32.3	31.9	△ 0.4	

団体名 (病院名)	青森市(青森市立浪岡病院)
--------------	---------------

## 2. 収支計画(資本的収支)

区分	年度	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度		
				計画	実績	計画との乖離
収 入	1. 企 業 債	9,800	9,500	62,700	62,700	0
	2. 他 会 計 出 資 金	37,516	21,672	0	0	0
	3. 他 会 計 負 担 金	0	0	23,365	23,365	0
	4. 他 会 計 借 入 金	0	0	0	0	0
	5. 他 会 計 補 助 金	0	0	0	0	0
	6. 国 ( 県 ) 補 助 金	0	0	0	0	0
	7. そ の 他	0	0	0	0	0
	収 入 計 (a)	47,316	31,172	86,065	86,065	0
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0
純計(a)-(b)+(c) (A)	47,316	31,172	86,065	86,065	0	
支 出	1. 建 設 改 良 費	21,148	10,800	68,970	63,538	△ 5,432
	2. 企 業 債 償 還 金	48,263	37,040	35,147	35,146	△ 1
	3. 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金	0	0	0	0	0
	4. そ の 他	0	0	0	4,823	4,823
	支 出 計 (B)	69,411	47,840	104,117	103,507	△ 610
差 引 不 足 額 (B)-(A) (C)	22,095	16,668	18,052	17,442	△ 610	
補 て ん 財 源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	0	0	0	0	0
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額	0	0	0	0	0
	3. 繰 越 工 事 資 金	0	0	0	0	0
	4. そ の 他	22,095	16,668	18,052	17,442	△ 610
計 (D)	22,095	16,668	18,052	17,442	△ 610	
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)	0	0	0	0	0	
実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0	0	

- 複数の病院を有する事業にあつては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
- 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。

## 3. 一般会計等からの繰入金の見直し

	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度		
			計画	実績	計画との乖離
収 益 的 収 支	( 0 ) 295,402	( 0 ) 297,098	( 0 ) 309,376	( 0 ) 309,376	0 0
資 本 的 収 支	( 0 ) 37,516	( 0 ) 21,672	( 206 ) 23,365	( 206 ) 23,365	0 0
合 計	( 0 ) 332,918	( 0 ) 318,770	( 206 ) 332,741	( 206 ) 332,741	0 0

(注)

- ( )内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。